

令和3年度 事業報告

(2021年4月1日～2022年3月31日)

本年度における会員現況と主な事業内容を以下項目別に報告する。

1. 会員状況

会員種別	2021年度			参 考	
	2021. 4. 1 現在数 (A)	2022. 3. 31 現在数 (B)	年度内の増減 (B-A)	2021. 3. 31 現在数 (C)	前年度末 との対比 (B-C)
名誉会員	20	23	3	20	3
終身会員	205	197	△8	185	12
正会員	2,787	2,717	△70	2,770	△53
学生会員	787	820	33	805	15
(合計)	3,799	3,757	△42	3,780	△23
賛助会員	225社 (307口)	217社 (300口)	△8社 (△7口)	222社 (304口)	△5社 (△4口)
特殊会員	71社 (90口)	70社 (84口)	△1社 (△6口)	70社 (89口)	0社 (△5口)

2. 定款・規則等の制定・改正

- | | |
|-------------------------------|----------------|
| (1) 日本音響学会論文賞選定規則 (改正) | (2021. 5. 22) |
| (2) 研究委員会規則実施細則 (改正) | (2021. 5. 22) |
| (3) 学生優秀発表賞受賞予定者選定手続(改正) | (2021. 9. 24) |
| (4) 寄付金の取扱規則 (制定) | (2021. 10. 22) |
| (5) 選定規則作成時に考慮すべき事項 (参考) | (2021. 10. 22) |
| (6) 音声合成研究奨励賞吉田賞選定規則(制定) | (2021. 11. 26) |
| (7) 音声合成研究奨励賞吉田賞受賞予定者選定手続(制定) | (2021. 11. 26) |

3. 機関誌の刊行

- (1) 日本音響学会誌
本期間は毎月1日(1号は12月25日)を発行日とし、次の12冊を刊行した。

77巻4号～78巻3号(2021年4月～2022年3月)

	巻		77巻								78巻			計	
	号		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2		3
	本文ページ		46	68	66	68	80	66	60	72	60	46	54	60	746
主 な 論 文 ・ 記	巻頭言				2							2			4
	音叉		2			2			2						6
	論文			11 (1)	22 (2)		9 (1)	9 (1)	24 (3)	8 (1)	11 (1)		10 (1)		104 (11)
	技術報告										6 (1)				6 (1)
	研究速報					4 (1)	4 (1)			8 (2)	4 (1)				20 (5)

主 な 論 文 ・ 記 事	特集にあたって											2 (1)	2 (1)	
	解説 (やさしい解説, 小特集を含む)	31 (4)	43 (7)	29 (4)	44 (7)	33 (4)	39 (6)	28 (4)	47 (7)	31 (4)	34 (6)	31 (4)	49 (7)	439 (64)
	連載講座	8	8	8	8	8	8							48
	会議報告 (シンポジウム/活動報告)											2 (1)		2 (1)
	研究発表会報告					1						1		2
	特別講演					6						4		10
	選奨記事・紹介記事					14		1						15
	書評							1	1					2
	コーヒープレーク	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24
	77巻総目次									4				4
	AST目次		1		2		2		1		2		2	10
	AST abstract		1		2		2		2		2		2	11
	学会記事等	2	1	2	3	2	3	1	2	2	3	3	1	25
	編集後記	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
会告	11	27	25	15	17	65	25	25	26	35	67	19	357	
広告	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	108	
発行部数	4250	4250	4250	4250	4250	4250	4250	4250	4250	4250	4250	4250	51400	
小特集タイトル		※1		※2		※3		※4		※5				
特集号タイトル												※6		

注 1) 欄中の () 内数値は編数。

2) 会告の内容は、研究会開催案内、音響関係国内並びに国際会議、その他周知記事である。

※1 公共空間の音ユニバーサルデザインに向けて

2 波動で測るかたさ・ねばり

3 楽器演奏者や楽器の研究に应用される計測技術

4 音・振動に関する教育

5 様々な空間・状況で良好な音声情報伝達を確保するための課題・工夫

6 高臨場感オーディオ特集号

(2) 英文論文誌 Acoustical Science and Technology

本期間は、2021年5月、7月、9月、11月、2022年1月、3月の各1日を発行日とし次の6冊をオンラインジャーナルとして刊行した。

なお、AST誌への投稿システムをJSTの協力により、“ScholarOne”システムを利用した。

Vol. 42 No. 3～Vol. 43 No. 2 (2021年5月～2022年3月)

Vol.		Vol. 42				Vol. 43		計
No.		3	4	5	6	1	2	
本文ページ		39	70	73	61	86	89	415
主 な 論 文 ・ 記 事	Foreword						2	2
	Paper	9 (1)	32 (3)	51 (5)	39 (3)	65 (7)	18 (2)	214 (21)
	Technical Report	12 (2)	7 (1)		6 (1)		8 (1)	33 (5)
	Acoustical Letter	12 (3)	28 (8)	19 (5)	7 (2)	16 (4)	27 (7)	109 (24)
	Invited Paper						31 (3)	31 (3)
	ERRATUM					1		1
	和文誌英文目次	2	2	2	2	2	2	12
	和文誌論文等内容梗概	1	1	1	2	2	1	8
	Vol. 42 総目次				5			5
特集号タイトル							※1	

注) 欄中の () 内数値は編数。

※1 Special Issue on High-reality Audio

(3) 科学技術振興機構(JST)が主催する「科学技術情報発信・流通総合システム(J-STAGE)」において、日本音響学会誌及び Acoustical Science and Technology 誌 (AST 誌) を公開した。なお、日本音響学会誌の J-STAGE での公開は 6 か月後としている。なお、日本音響学会誌の目次情報は、発刊後 1 か月程度で公開した。

(4) 編集委員会の国際化に係る取り組み

本学編集委員会において、投稿に関する規定等の英文化を図るとともに、海外の研究者に編集委員として参画を依頼するなど、国際化に取り組み、AST 誌の国際的な評価の向上をはかる活動を行った。

4. 研究発表会及び関連イベントの開催

(1) 春季研究発表会は、2021年3月10日、11日、12日の3日間、遠隔会議システム(Zoom)と Learning Management System (LMS) の Moodle を利用して開催した。

申込件数は 503 件、このうち、スペシャルセッションは 11 テーマ、「曲げ波の振動を利用したスピーカの現在と未来」、「医用超音波における診断指標の確立に向けた研究の動向」、「コロナ禍の新しい生活様式における建築音響の役割」、「住宅の音環境性能評価の動向」、「音楽制作と音響信号処理」、「聴覚の受動的注意」、「3D オーディオが織りなす音空間のデザイン」、「コロナ禍における音の教育」、「コロナ禍における音バリアフリーの役割-オンライン作業・授業での音支援など-」、「スポーツと音 その 6」、「音声コミュニケーションの diversity」で実施した。

春季研究発表会におけるオンライン開催を確実に実施するため、2021年春季研究発表会遠隔開催実行委員会(鶴木祐史委員長)を組織した。

なお、賛助会員のポスター展示を実施し、10社が展示を行った。

(2) 秋季研究発表会は、2021年9月7日、8日、9日の3日間、遠隔会議システム(Zoom)と Learning Management System (LMS) の Moodle を利用して開催した。

申込件数は 515 件、このうち、スペシャルセッションは 7 テーマ、「対話制御技術」、「強力超音波の最新研究の動向」、「音楽と楽器制作」、「サウンドスケープと音のデザイン」、「高臨場感オーディオの実用化-国際標準化の動向」、「スポーツと音 その 7」、「ウィズ/ポストコロナ時代における音声コミュニケーション」で実施した。

秋季研究発表会におけるオンライン開催を確実に実施するため、2021年秋季研究発表会遠隔開催実行委員会(小澤 賢司委員長)を組織した。

なお、賛助会員のポスター展示を実施し、15社が展示を行った。

(3) 春季並びに秋季の発表分野、講演件数及び特別講演は次表のとおりである。

分野別		春季	秋季
講演件数	音響教育	5	4
	超音波/水中音響(秋季は熱音響技術を含む)	45	45
	熱音響技術	6	5
	電気音響	118	106
	騒音・振動	22	24
	建築音響	19	46
	アコースティックイメージング	6	11
	聴覚	36	34
	聴覚・音声	9	10
	音声コミュニケーション	24	35
	音声 A	49	—
	音声 B	55	—
	音声 A・B		99
	音楽音響	12	20

音支援(音バリアフリー)	5	5
音のデザイン	17	17
スペシャルセッション (春季11テーマ)	75	—
スペシャルセッション (秋季7テーマ)	—	54
計	503	515

特別講演	演題・講師	災害と音響学 東北大学 教授 日本音響学会 会長 伊藤 彰則 氏	AI時代の大学と社会 国立情報学研究所 研究総主幹 東京工業大学 名誉教授 古井 貞熙 氏
		—	基礎研究は地味だが役に立つ —クラウドネスがデジタル放送の礎に— 東北北文化学園大学 教授 東北大学 名誉教授 鈴木 陽一 氏

(4) 前日企画

- 2021年春季研究発表会の前日企画は、3月9日(火)13:00~17:00、次の3つのイベントをオンラインで開催した。
 - ア. 技術動向レビューは、「産業界と学会の新たな連携に向けて」をテーマとして実施した。
 - イ. 活性化・若手育成委員会(峯松 信明委員長)では、学生・若手フォーラムと協力して「音響×キャリアパス ~音を仕事にしてみたら~」をテーマとして実施した。
 - ウ. 賛助会員と学生との交流会は、7社の賛助会員が参加して実施した。
- 2021年秋季研究発表会の前日企画は、9月6日(月)13:00~16:45、次の2つのイベントをオンラインで開催した。
 - ア. 技術動向レビューは、「海外における技術・研究動向」をテーマとして実施した。
 - イ. 活性化・若手育成委員会(峯松 信明委員長)では、学生・若手フォーラムと協力して「スペクトログラムから紐解くデジタル信号処理の基礎」をテーマとして実施した。

(5) 研究発表会ポータルサイト

2021年春季遠隔開催実行委員会(鶴木祐史実行委員長)及び2021年秋季遠隔開催実行委員会(小澤賢司実行委員長)において、研究発表会ポータルサイトを作成した。ポータルサイトでは、発表スケジュール、イベント・行事等の案内、特設サイトの紹介、賛助会員ポスター会場、広告出稿企業一覧等を掲示した。さらに、ポータルサイトから「User ID」、「パスワード」入力後、研究発表会「オンライン会場」への移動ができるような仕組みを設けた。

(6) 遠隔開催実行委員会の開催

2021年春季遠隔開催実行委員会及び2021年秋季遠隔開催実行委員会では、それぞれ、複数回の実行委員会を開催した。

5. 研究会の開催

(1) 本年度に実施した各研究会の活動概要は次表のとおりである。

研究会名	委員長 (敬称略)	開催回数	発表件数	備考
超音波	小池 義和	9	83	電気音響、アコースティックイメージング研究会との合同開催の分を含む
騒音・振動	高野 靖	10	57	アコースティックイメージング、建築音響研究会、音のデザイン調査研究委員会、日本機械学会研究会との合同開催分を含む
電気音響	梶川 嘉延	5	118	聴覚、音楽音響、超音波、音声研究会、音響教育委員会との合同開催の分を含む

音 声	北村 達也	6	90	電気音響, 聴覚, 音楽音響, 音声コミュニケーション研究会, 音響教育委員会, 北陸支部との合同開催の分を含む
聴 覚	加藤 宏明	9	134	電気音響, 音楽音響, 音声, 音声コミュニケーション研究会, 音響教育委員会との合同開催の分を含む
建 築 音 響	杉江 聡	10	46	騒音・振動研究会との合同開催の分を含む
音 楽 音 響	亀川 徹	9	67	電気音響, 聴覚, 音声研究会, 音響教育委員会との合同開催分を含む
アコースティック クイメージング	土屋 隆生	5	34	超音波, 騒音・振動研究会との合同開催の分を含む
音声コミュニケーション	荒井 隆行	4	47	音声, 聴覚研究会との合同開催分を含む
音響教育委員会	河原 一彦	1	17	電気音響, 聴覚, 音声, 音楽音響研究会との合同開催の分を含む
合 計		68	695	

(2) 騒音・振動, 聴覚, 建築音響及び音楽音響研究会資料の年間購読の請求事務は学会事務局で代行した。

6. 国際交流

(1) 国際会議の開催・準備等

COVID-19の影響で2021年まで延長したInternational Year of Sound 2020+ (IYS2020+)に協力し, IYS2020 実行委員会(安藤 彰男委員長)及び研究委員会において, イベントを開催した。

(2) 当学会が加盟団体となっている国際音響学会(ICA), 国際騒音制御工学会(I-INCE)の活動に協力した。

(3) (公社)日本騒音制御工学会と共催して実施するINTER-NOISE 2023の開催準備に協力した。

(4) 西太平洋地区音響学会(WESPAC)に協力した。

7. 音響規格の調査・作成

(1) 音響規格委員会(鈴木陽一委員長)において, 当学会が担当する電気音響及び音響一般に関するIEC/TC 29(国際電気標準会議第29専門委員会(電気音響))及びISO/TC 43(国際標準化機構第43専門委員会(音響))の国際標準の審議及び調査研究等を行った。

なお, 音響規格委員会は, IEC/TC 29 専門委員会, ISO/TC 43 専門委員会, ISO/TC 43/SC 1 専門委員会, ISO/TC 43/SC 2 専門委員会, 及びISO/TC 43/SC 3 専門委員会構成する。

(2) 当学会で原案作成を行った日本産業規格(JIS)に関して5年ごとの見直し作業を行った。

8. 調査研究委員会の活動

2021年度において, 熱音響技術調査研究委員会が活動を終了した。また, 音声コミュニケーション調査研究委員会は, 音声コミュニケーション研究委員会として, 新たに発足した。

(1) 道路交通騒音予測手法の調査研究

(株)高速道路総合技術研究所との共同研究により, 「道路交通騒音の予測精度向上に関する研究」を実施した。道路交通騒音調査研究委員会(岡田 恭明委員長)が作業を実施した。

(2) 音バリアフリーに関する調査研究

音バリアフリー調査研究委員会(中村 健太郎委員長)において, 聴覚障害者のための会話システムの研究, デバイスの研究・開発・実用化及び普及を目的とした活動を行った。

(3) 音のデザインに関する調査研究

音のデザイン調査研究委員会(高田 正幸委員長)において, 製品音, サイン音, サウンド

スケープ、音環境等の音のデザインについて、包括的に調査研究を行い、音のデザインの必要性、可能性、将来性を発信することを目的とする活動を実施した。

- (4) 非常用屋外拡声システムに関する調査研究
非常用屋外拡声システム調査研究委員会（佐藤 洋委員長）において、伝達用屋外拡声システムの設計・性能等に関する調査研究を行った。
- (5) 軟骨伝導に関する調査研究
軟骨伝導の基本メカニズムとその応用技術等について検討する軟骨伝導調査研究委員会（細井 裕司委員長）において、軟骨伝導応用機器の普及、軟骨伝導音の校正法の規定等に関する調査研究を行った。
- (6) 生物音響に関する調査研究
生物音響に関する研究の進歩と研究母体の拡大を図り、生物音響学分野の研究成果の発表、情報交換、連絡連携を目的とする生物音響調査研究委員会（力丸 裕委員長）において、調査研究を行った。
- (7) 高臨場感オーディオに関する調査研究
高臨場感オーディオに関連する研究分野において、横断的な議論を行う機会を提供し、当該分野の更なる発展を目的とする高臨場感オーディオ調査研究委員会（安藤 彰男委員長）を設置し、調査研究を行った。
- (8) スポーツ音響に関する調査研究
音響学とスポーツ競技と音のかかわりやその競技場の音環境に関し、関連する分野の研究所が議論できる場を設けることを目的とするスポーツ音響調査研究委員会（上田 麻理委員長）を設置し、調査研究を行った。

9. 学術委員会関連委員会の活動

- (1) 音響教育に関する調査研究
音響教育委員会（河原 一彦委員長）では、音響学の教育と教育研究及びその普及を主たる目的として委員会活動を行っている。なお、今年度の「音の科学教室」等のイベントは中止となった。

10. 選 奨

- (1) 功 績 賞
音響に関する学術又は関連事業に対し、特別の功績があると認められる方に贈られるもので、第45回功績賞受賞者は、今泉 敏、藤本 一壽、本多 清志の3氏に決定した。
- (2) 日本音響学会論文賞
音響学に関し学術上及び技術上貢献するところが大きい研究業績を本会会誌に発表した方に贈られるもので、学会誌76巻1号～12号、77巻1号～12号並びにAST誌Vol. 41 No. 1～ No. 6, Vol. 42 No. 1～ No. 6に掲載された論文中から優秀な論文を選定した。

第62回日本音響学会論文賞受賞論文（敬称略）

ア. 日本音響学会論文賞佐藤賞

- 「防災行政無線屋外拡声子局における出力レベルの最適化」

日本音響学会誌 76 巻 9 号(2020)

西村 竜一(国立研究開発法人 情報通信研究機構), 坂本 修一(東北大学),

苅木 禎史(千葉工業大学), 山高 正烈(愛知工科大学)

イ. 日本音響学会論文賞古井賞

- 「Origin of frequency dependence of interaural time difference」

AST 誌 42 巻 4 号(2021)

大谷 真(京都大学), 平原 達也, 森川 大輔(富山県立大学)

- (3) 環境音響研究賞

環境音響学の発展に貢献した、主として建築音響分野又は騒音分野に関連する一連の研究を対象とするもので、会員から推薦のあった候補者から優秀な者を選び、2022年春季研究発表会選奨会場(2022年3月10日)で本賞を贈呈した。

第13回環境音響研究賞受賞者(敬称略)

- 添田 喜治(産業技術総合研究所) / 下倉 良太(大阪大学)
「鉄道駅・車内・トンネルにおける音環境に関する研究」

(4) 独創研究奨励賞 板倉記念

音響学に関する独創的な研究を行った若手会員の方に贈られるもので、会員から推薦のあった候補者から優秀な者を選定した。

第17回独創研究奨励賞 板倉記念 受賞者(敬称略)

- 池下 林太郎(日本電信電話(株))
研究名:「独立成分分析による雑音残響下ブラインド音源抽出のための高速最適化アルゴリズム」
- 中村 友彦(東京大学)
研究名:「ウェーブレット変換と深層学習を融合した音楽音響信号に対する音源分離の研究」

(5) 栗屋 潔学術奨励賞

有為と認められる新進の研究・技術者の方に贈られるもので、2021年春季研究発表会の講演申込者並びに秋季研究発表会の講演者のうちの本賞受賞対象者から優秀な者を選定した。

第50回栗屋 潔学術奨励賞受賞者(敬称略/2021年春季研究発表会, 5名)

- 岡崎 聡(京都市立芸術大学)
「2 純音の同時性知覚における聴覚末梢の寄与」
- 金川 哲也(筑波大学)
「マイクロバブルを含む水流中における圧力波の非線形発展 —非振動成分としての抗力と気泡並進運動が波に及ぼす影響の理論的発見—」
- 佐々木 陽(NHK放送技術研究所)
「簡易WFSとVBAPの融合による音源の遠近表現を目指したオブジェクトベース音響レンダリング則」
- 藤田 悠哉(ヤフー(株))
「挿入操作に基づく End-to-End モデルによる音声認識と音声区間検出」
- 森谷 崇史(日本電信電話(株))
「CTC-Transformer 音声認識における自己知識蒸留の検討」

第51回栗屋 潔学術奨励賞受賞者(敬称略/2021年秋季研究発表会, 4名)

- 菅原 彬子(近畿大学)
「結晶構造を利用した多孔質吸音材の吸音特性に関する検討」
- 田中 智大(日本電信電話(株))
「半教師あり学習に基づくリッチトランスクリプション型音声認識の検討」
- 原 量子(九州大学)
「一般的なスピーカを用いた楽器の指向性模擬の試み —可聴化における聴感印象の変化—」
- 李 莉(名古屋大学)
「ChimeraACVAEによる高速多チャンネル変分自己符号化器法」

(6) 学生優秀発表賞

春季又は秋季研究発表会において優秀な発表を行った学生会員に贈られるもので、2021年春季研究発表会並びに秋季研究発表会の講演者のうちの本賞受賞対象者から優秀な者を選定した。

第22回学生優秀発表賞受賞者(敬称略/2021年春季研究発表会, 21名)

岡本 悠希(立命館大学),小口 純矢(明治大学),角谷 健太(名古屋工業大学),藤本 崇人(名古屋工業大学),及川 隼平(東北大学),西山 織絵(千葉工業大学),井上 翔太(筑波大学),河村 泰雅(徳山工業高等専門学校),蓮実 拓也(東京大学),春田 智穂(東京都立大学),村島 允也(筑波大学),杉本 理乃(青山学院大学),福田 大輝(東京大学),片岡 優太(早稲田大学),庄司 悠人(東北大学),中岡 夏海(同志社大学),丸山 悠輝(同志社大学),黒澤 将(東京都立大学),戸田 勇介(中央大学),金谷 麻由佳(立命館大学),柏崎 紘(九州大学)

第23回学生優秀発表賞受賞者(敬称略/2021年秋季研究発表会,24名)

榎原 卓弥(東京大学),佐伯 高明(東京大学),二見 颯(京都大学),米山 怜於(名古屋大学),中川 優奈(東京女子大学),吉田 創志(同志社大学),金子 昌賢(メリーランド大学カレッジパーク校),河井 薫(芝浦工業大学),畔柳 伊吹(名古屋大学),住吉 亨介(東京都立大学),長友 健人(早稲田大学),堀内 亮佑(東京大学),黒木 智穂(九州大学),原野 大河(茨城大学),田中 達宏(京都大学),向江 俊一(神戸大学),小原 優(東北大学),貝瀬 不二丸(桐蔭横浜大学),瀬尾 康太(千葉大学),八木 風音(千葉大学),村木 亜未香(九州大学),戸田 菜月(千葉工業大学),内城 沙月(東北大学),二村 亮平(神奈川工科大学)

(7) 技術開発賞

音響に関する工学技術の進歩発展に特に貢献したと認められる本会賛助会員の代表者,賛助会員所属の個人,グループに贈られるもので,公募により推薦された候補の中から優秀なものを選んだ。

○TOA(株),日本電信電話(株),NTTテクノクロス(株)

「15ch対応の高品質800MHz帯ワイヤレスマイクシステム」

伊藤 貴彦,東 啓,山田 みとみ,小椋 隆志,森口 功士,江島 賢一,出田 万弓(TOA(株)),杉浦 亮介,鎌本 優,守谷 健弘(日本電信電話(株)),小崎 嘉明,大庭 弘己,佐々木 茂明(NTTテクノクロス(株))

○大成建設(株)技術センター

「建物外装材を対象とした測定・評価システム「風騒音シミュレータ」の開発」

富高 隆,増田 潔,浜田 由記子,吉川 優(大成建設(株)技術センター)

(8) 学会活動貢献賞

本学会活動の活性化に多大な貢献があった若手の正会員又は学生会員を顕彰する目的で贈られるもので,今年度は次の10名を選定した。

第9回学会活動貢献賞受賞者

○荒川 元孝(東北大学)[超音波研究委員会の幹事・幹事補佐としての貢献に対して]

○井上 尚久(前橋工科大学)[建築音響研究委員会の幹事・幹事補佐としての貢献に対して]

○大久保 寛(東京都立大学)[アコースティックイメージング研究委員会の幹事・幹事補佐としての貢献に対して]

○岡本 拓磨(国立研究開発法人 情報通信研究機構)

[広報・電子化委員会の委員としての貢献に対して]

○川井 敬二(熊本大学)[編集委員会の幹事としての貢献に対して]

○小泉 悠馬(グーグル合同会社)[学生・若手フォーラムの代表としての貢献に対して]

○小山 翔一(東京大学)[電気音響委員会の副委員長・幹事としての貢献に対して]

○齋藤 大輔(東京大学)[広報・電子化委員会の委員としての貢献に対して]

○寺島 裕貴(日本電信電話(株))[聴覚研究委員会の幹事としての貢献に対して]

○深山 覚(産業技術総合研究所)[広報・電子化委員会の委員としての貢献に対して]

(9) 音響遺産の認定

本学会プレゼンス向上を目的として,音響学及び音に関わる事象を「音響遺産」として認定する。今年度は,第2回及び第3回音響遺産を認定。第2回音響遺産は,「マグノスコープ(電気聴診器)所蔵:東北大学電気通信研究所」,「蘇言機(日本で最初に音を記録・再生した器械)所蔵:国立科学博物館」,第3回音響遺産は,「時の鐘 川越市指定有形文化財」,「量産型国

産補聴器第一号 所蔵：リオン株式会社」をそれぞれ認定した。

1 1. 講習会、講演会及びセミナーの開催

(1) 講習会（敬称略）

事業委員会（西村 明委員長）が今年度を実施した講習会及び技術セミナーは以下のとおりである。なお、Web 会議システムを利用するオンライン開催で実施した。

ア. 「研究・記録のための資料音の録音」（第 181 回技術講習会）

期 日：2021 年 6 月 5 日 会場：オンライン (Zoom) 開催

講 師：西村 明 (東京情報大学)

受講者数：27 名

イ. 「すっきり！わかる！音声言語処理と深層学習の最新知識 (初級)」（第 182 回技術講習会）

期 日：2021 年 7 月 21 日 会場：オンライン (Zoom) 開催

講 師：小林 彰夫 (筑波技術大学)

受講者数：30 名

ウ. 「よくわからない音響信号解析の基礎」（第 183 回技術講習会）

期 日：2021 年 8 月 5 日～6 日 会場：オンライン (Zoom) 開催

講 師：森勢 将雅 (明治大学)

受講者数：37 名

エ. 「音響研究・オーディオ開発における DAW ソフトウェア「REAPER」の活用術」（第 184 回技術講習会）

期 日：2021 年 10 月 4 日 会場：オンライン (Zoom) 開催

講 師：亀川 徹 (東京藝術大学), 丸井 淳史 (東京芸術大学)

受講者数：18 名

オ. 「すっきり！わかる！音声言語処理と深層学習の最新知識」（第 185 回技術講習会）

期 日：2021 年 12 月 8 日 会場：オンライン (Zoom) 開催

講 師：小林 彰夫 (筑波技術大学)

受講者数：17 名

カ. 「デジタル信号処理の基礎と応用」（第 186 回技術講習会）

期 日：2022 年 1 月 17 日～18 日 会場：オンライン (Zoom) 開催

講 師：高橋 義典 (工学院大学), 池田 雄介 (東京電機大学)

受講者数：28 名

キ. 「総ざらい! 深層学習に基づく音声合成を概観する - 基礎から最新動向まで -」（第 187 回技術講習会）

期 日：2022 年 1 月 20 日 会場：オンライン (Zoom) 開催

講 師：齋藤 大輔 (東京大学)

受講者数：23 名

ク. 「新しい道路交通騒音の予測モデル ASJ RTN-Model 2018」（第 23 回音響技術セミナー）

期 日：2021 年 8 月 23 日 会場：オンライン (Zoom) 開催

講 師：岡田 恭明 (名城大学), 安田 洋介 (神奈川大学), 坂本 慎一 (東京大学),
一木 智之 (ニューズ環境設計), 穴井 謙 (福岡大学),
山内勝也 (九州大学)

受講者数：17 名

(2) サマーセミナー

ア. 「音響学の基礎と最近のトピックス」（第 22 回サマーセミナー）

今回のサマーセミナーは、内容を「キーノートトーク」、「ライトニングトーク」に分け、「キーノートトーク」は大鶴 徹会長が担当し、「ライトニングトーク」は、30 名がそれぞれの

テーマを決めて講演する方式とした。大変好評であった。

期 日：2021年8月24日 会場：オンライン(Zoom, Gather)開催

受講者数：101名

1 2. 出版事業

(1) 出版委員会(坂本 修一委員長)に属する3つのシリーズ編集委員会、音響テクノロジーシリーズ編集委員会(飯田 一博委員長)、音響入門シリーズ編集委員会(大川 茂樹委員長)、音響サイエンスシリーズ編集委員会(蘆原 郁委員長)において、それぞれ企画内容について審議した。

(2) 音響用語辞典編集委員会(鈴木 陽一委員長)において、用語の選定作業を行い、編集作業を進めた。

1 3. 学会電子化推進に関する活動

広報・電子化委員会(小澤 賢司委員長)において、学会ホームページの管理・運営、学会メンバーリストの発信及び研究発表会実行委員会に参画し、オンライン開催のシステム全般の管理・運営に協力した。

1 4. 学会活性化、若手育成に関する活動

活性化・若手育成委員会(峯松 信明委員長)において、ビギナーズセミナーの開催、学生・若手フォーラムの活性化を図る活動を行った。

1 5. 財務に関する活動

財務委員会(中村 健太郎委員長、亀川 徹(会勢拡大担当)、戸井 武司(広告担当))、西川 剛樹(産業連携担当)において、賛助会員、広告の増加策等会勢の拡大につながる諸策を実施し、財務の安定にむけた活動を行った。

・ 賛助会員入会のメリットの整理・追加を行い、入会の勧誘を行った。また、研究発表会ポスターセッションの空きコマを有効に活用するため、賛助会員にポスター展示の希望を募り、実施した。

・ 2021年春季研究発表会において、当学会賛助会員と学生会員を対象として情報交換を目的とする交流会(オンライン開催)を実施した。

1 6. 寄付制度と学会活動活性化

2021年度会費の請求に併せて名誉会員、終身会員、正会員にご寄付を募った。なお、拠出寄付金は、学会活性化に関する事業に資する目的で学会活性化積立資産として積み立てた。

1 7. 通常総会の開催

第55回通常総会は、2021年5月22日、オンライン開催により実施した。

なお、出席者は、122名(うち議決権行使書の提出による出席38名)であった。また、オンライン開催の実施に関し、広報・電子化委員会でシステムを選択し実施した。

1 8. 理事会、役員会並びに委員会活動

(1) 理事会

2021年度理事会は、2021年8月を除く毎月開催したほか理事の交代期の5月には2回開催し、計12回開催した。なお、理事会は全てオンラインで開催した。

(2) 役員会

2021年度役員会は、2021年8月を除く毎月、計11回開催した。なお、役員会は全てオンラインで開催した。

(3) 企画委員会

2021年度企画委員会(荒井 隆行委員長)は、2021年8月を除く毎月、計11回開催した。企画委員会は全てオンラインで開催した。

(4) 編集委員会

2021年度編集委員会（野村 英之委員長）は、2021年5月、6月、7月、9月、11月、2022年1月及び3月の計7回開催した。なお、編集委員会は全てオンラインで開催した。

(5) 学術委員会

2021年度学術委員会（岩谷 幸雄委員長）は、2021年6月、9月、11月、2022年3月の4回開催した。なお、学術委員会は全てオンラインで開催した。

(6) 研究発表会準備委員会

2021年度研究発表会準備委員会（水町 光徳委員長）は、2021年11月に開催した。同委員会は、研究発表会の開催形式、次期開催大学等の選定について活動した。なお、研究発表会プログラム編成委員会は、6月、11月の2回開催した。

(7) 広報・電子化委員会

2021年度広報・電子化委員会（小澤 賢司委員長）は、関係する委員会に協力し、広報・電子化活動を行った。

(8) 事業委員会

2021年度事業委員会（西村 明委員長）は、2021年7月、2022年2月の2回開催した。

19. 他学協会等からの共催等依頼

区 分	件 数	摘 要
共 催	2 件	(一社)日本機械学会ほか
協 賛	38 件	(公社)日本騒音制御工学会ほか
後 援	0 件	
計	40 件	

20. 支部所属会員

(1) 関西支部

会員種別	2021年度			参 考	
	2021. 4. 1 現在数(A)	2022. 3. 31 現在数(B)	年度内の増減	2021. 3. 31 現在数(C)	前年度末 との対比
名誉会員	5	5	0	5	0
終身会員	26	24	△2	23	1
正 会 員	439	435	△4	437	△2
学生会員	148	168	20	147	21
(合計)	618	632	14	612	20

(2) 東北支部

会員種別	2021年度			参 考	
	2021. 4. 1 現在数(A)	2022. 3. 31 現在数(B)	年度内の増減	2021. 3. 31 現在数(C)	前年度末 との対比
名誉会員	4	4	0	4	0
終身会員	18	18	0	18	0
正 会 員	105	106	1	105	1
学生会員	80	54	△26	81	△27
(合計)	207	182	△25	208	△26

(3) 東海支部

会員種別	2021年度			参 考	
	2021. 4. 1 現在数(A)	2022. 3. 31 現在数(B)	年度内の増減	2021. 3. 31 現在数(C)	前年度末 との対比
名誉会員	0	0	0	0	0
終身会員	23	22	△1	21	1
正 会 員	261	254	△7	258	△4
学生会員	69	73	4	70	3
(合計)	353	349	△4	349	0

(4) 九州支部

会員種別	2021年度			参 考	
	2021. 4. 1 現在数(A)	2022. 3. 31 現在数(B)	年度内の増減	2021. 3. 31 現在数(C)	前年度末 との対比
名誉会員	1	1	0	1	0
終身会員	9	9	0	9	0
正 会 員	144	144	0	143	1
学生会員	48	54	6	53	1
(合計)	202	208	6	206	2

(5) 北陸支部

会員種別	2021年度			参 考	
	2021. 4. 1 現在数(A)	2022. 3. 31 現在数(B)	年度内の増減	2021. 3. 31 現在数(C)	前年度末 との対比
名誉会員	0	1	1	0	1
終身会員	3	3	0	2	1
正 会 員	68	70	2	68	2
学生会員	62	59	△3	63	△4
(合計)	133	133	0	133	0

2 1. 支部の事業

(1) 関 西 支 部

ア. 支部役員会

支部役員会は、2021年4月、6月、11月、12月、2022年3月の5回開催。

イ. 総会・研究会・支部研究発表会等の事業

事業の内容	開催日	場 所	摘 要 (敬称略)
支部総会	2021. 4. 22	オンライン (Zoom)	2020年度事業実施・決算報告 2021年度事業計画・予算審議 オンライン出席 38名, 委任状 71 通 計 109名 (定足数 85名)
講演会・見学会	2021. 4. 22	オンライン (Zoom)	京都市京セラ美術館 青木淳氏 による講演 参加者 34名 見学会は中止
秋季講演会	2021. 10. 13	オンライン (Zoom)	セイアカデミー片山光男氏に よる講演・ボイストレーニング 参加者 29名
秋季見学会	2021. 10. 13	オンライン (Zoom)	音響研究室中継リレー (TOA→ 情報通信研究機構→京大) 参加者 31名

第 24 回若手研究者 交流研究発表会	2021. 12. 4	オンライン (Gather)	ポスターセッション, ポスター発表 44 件 企業展示 1 件, 団体展示 5 件 参加者 107 名
------------------------	-------------	----------------	---

ウ. 研究会開催補助

音声研究会, 騒音・振動研究会, 建築音響研究会, 音声コミュニケーション研究会に実施した。

(2) 東 北 支 部

ア. 支部役員会

支部役員会は 2022 年 3 月にオンラインで, 開催した。

イ. 総会・研究会・連合大会等の事業

事業の内容	開催日	場 所	摘 要 (敬称略)
支部総会	2021. 3. 26	オンライン開催	
第 1285 回学術講演会 (主催)	2021. 6. 30	オンライン開催	「医用超音波, 研究は驚きと醍醐味の連続」 講師 金井 浩 氏(東北大学) 来聴者 252 名
2021 年度電気関係学 会東北支部連合大会	2021. 8. 26 ~ 27	オンライン開催	発表件数 221 件(音響関係 11 件, セッション数 29, 参加者 264 名, 広告掲載企業 29 社・団 体, 賛助協力企業 8 社
東北大学電気通信研究 所一般公開 2021(後 援)	2021. 10. 9	オンライン開催	後援 5 学会, 情報通信研究機構, 4 教育委員会
第 4 回東北地区音響学 研究会	2021. 11. 27	オンライン開催	発表件数 10 件 参加者 約 30 名
令和 4 年度東北地区若 手研究者研究発表会 (共催)	2022. 2. 28	オンライン開催	東北地区若手研究者研究発表会主 催, 日本音響学会東北支部ほか 7 学会共催 講演件数 124 件(音響関係 18 件) 参加者 305 名(延べ)

ウ. 若手研究者優秀論文賞

東北支部電気関係学会支部連合大会, 東北地区音響学研究会及び東北地区若手研究発表会音分野若手オンライン発表会から, 所定の手続きにより審査を行った。その結果, 電気関係学会東北支部連合大会から 2 名, 東北地区音響学研究会から 2 名及び若手研究者研究発表会音分野若手オンライン発表会から 2 名の受賞者を決定した。

(3) 東 海 支 部

ア. 支部役員会

支部役員会は, 2021 年 12 月, 2021 年 3 月に開催。

イ. 総会・研究会・連合大会等の事業

事業の内容	開催日	場 所	摘 要 (敬称略)
2021 年度支部総会	2021. 3. 25	ウイנקあいち/オン ライン-	出席者 13 名
電気・電子・情報関係学 会東海支部連合大会	2021. 9. 7 ~ 8	オンライン開催	参加者 643 名 講演件数 357 件 音響学会関連発表企画 4 件, 一般 1 件

東海地区音声関連研究室修士論文中間発表会	2021. 9. 11	岐阜大学(オンライン開催)	参加者 201 名 講演件数 57 件
支部技術講習会	2021. 11. 16	オンライン開催	参加者 32 名
支部見学会	2021. 12. 4	浜松市楽器博物館(オンライン開催)	参加者 20 名
2021 年度優秀発表表彰式	2021. 12. 9	ウイंकあいち/オンライン開催	出席者 14 名
東海地区音声関連研究室卒業論文(中間)発表会(後援)	2021. 12. 11	愛知工業大学	参加者 72 名 講演件数 54 件

ウ. 学生会員発表奨励制度

東海支部が主催又は共催した修士論文中間発表会、電気関係学会支部連合大会において優秀な講演を行った学生会員を対象として表彰した。今年は発表奨励 16 名、優秀発表賞 6 名であった。

エ. 2021 年度学会活動貢献賞

学会活動貢献賞は、東海支部が行う学会活動の活性化に多大な貢献があった若手の支部会員に贈呈するもので、2021 年度学会活動貢献賞は 1 名選定した。

(4) 九 州 支 部

ア. 支部役員会

支部役員会は、2022 年 3 月に開催(オンライン会議)。

イ. 総会・研究会・連合大会等の事業

事業の内容	開催日	場 所	摘 要 (敬称略)
第 74 回電気・情報関係学会九州支部連合大会	2021. 9. 24 ～ 25	オンライン開催	共催 講演件数 315 件、参加登録 507 件
アコースティックブートキャンプ(ABC-Q)	2021. 8. 31	オンライン開催	主催 参加者 一般参加学生 34 名、 オンデマンド視聴登録者 2 名、 TA 院生 5、スタッフ 6 名 技術研修 3 件
建築音響/騒音・振動研究会	2021. 11. 9	九州大学/オンライン開催	共催
第 15 回学生のための研究発表会	2021. 11. 27	オンライン開催	主催 発表件数 12 件 参加者 45 名
音響・超音波サブソサイエティ合同研究会	2021. 12. 23 ～ 24	崇城大学	共催
講演会	2022. 3. 26	オンライン開催	主催 演題「音響学、九州・世界・歴史 一話しておきたいこと聞いてもら いたいこと」 講師 大鶴 徹先生 参加者 35 名
支部総会	2022. 3. 26	オンライン開催	主催

ウ. 学生表彰

九州支部が主催又は共催した研究発表会、研究会等における学生の発表を対象として応募者を募り特に優れたものを表彰した。2021 年度の表彰者は 2 名であった。なお、表彰式は、2022 年 3 月 26 日に支部総会に引き続き実施した。

エ. 支部学会活動貢献賞

部学会活動貢献賞は、九州支部の活動の活性化に多大な貢献が認められるものを表彰するもので、2021 年度は、該当者がなかった。

(5) 北 陸 支 部

ア. 支部役員会

支部役員会は、2021年3月、2021年6月に開催。

イ. 総会・研究会・連合大会等の事業

事業の内容	開催日	場 所	摘 要 (敬称略)
支部総会	2021. 4. 3	COVID-19 の影響により メール審議	令和2年度事業報告・決算報告 令和3年度事業計画・予算 4月9日までのメール回答による 審議期間を経て了承された
2021年度電気・情報関係 学会北陸支部連合大会	2021. 9. 4	オンライン開催	音波・音響関係部門 講演10件(う ち招待講演1件) 学生優秀論文発表賞3件
聴覚／電気音響／EMM研 究会	2021. 11. 15 ～ 16	オンライン開催	講演31件(うち招待講演3件) 参加者数約150名
音声研究会	2021. 11. 15 ～ 16	オンライン開催	講演15件(うち招待講演2件) 参加者数約100名
北陸地区学生による研 究発表会	2022. 3.	中止	

事業報告書の附属明細書

特に記載すべき重要な事項はありません。